

景勝地に建つ 土間スペースのある週末住宅 (木造2階建)

要求図書については、1階平面図兼配置図、2階平面図、立面図、断面図、
2階床伏図兼1階小屋伏図、部分詳細図(断面)、面積表、仕上表及び計画の要点等とする。

(注) 答案用紙には、1目盛が4.55mm(部分詳細図(断面)については10mm)の方眼が与えられている。

本年度対策のポイント

【景勝地に建つ】→景色のよい敷地に建物を計画することとなります。ポイントは景色のよい方向に、どの要求室を配置するかを課題文より明確に読み取り、作図にて表現することです。例えば、居間から景色を眺められるようにという条件があった場合、忠実に守って居間を配置すればOKです。ただし、イレギュラーな条件が付加された場合は注意が必要です。居間自体の階数指定がない場合は2階の方がより眺めが良くならないか？ 北側が景色のよい方向となった場合、居間は南面させつつ、北側の景観も眺めるように配慮が必要ではないか？ など考慮して設計してください。次に観光地として観光客の往来が近くにあるかないかも意識してみてください。課題文によって観光客から隠れるようにすべきか否かの条件も正確に読み取りましょう。また、敷地や隣地に勾配があることも想定できますので、練習をして対策して下さい。

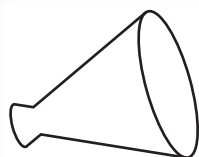
【土間スペース】→靴を履いたまま人が入れるスペースです。玄関が広くなりいろいろな家具等が置いてあるのをイメージするとわかりやすいでしょう。また、店舗に似ているかもしれません。そこにキッチンがあれば料理教室に、テーブル・いすがあれば、飲食店や作業場となりえます。設計のポイントは2つ、誰が利用するのか、どこで下足を脱ぐのかです。この2点は練習をすすめていくと自然に対応できるようになりますが、必ず意識して設計して下さい。さらに「スペース」という言回しに注意が必要です。「土間室」ではなく「土間スペース」であることから、間仕切られた空間ではなくてもいいと理解して下さい。土間スペースを使用する人が、どんな作業をするためのスペースかにより、他の居室と繋げて(間仕切らない)計画が必要です。

【週末住宅】→現代における週末住宅とは、別荘という意味合いよりもセカンドハウスとして利用することのほうが多い。平日は職場や学校に近い都会に賃貸住宅を借りており、週末にセカンドハウスを利用するという家族も珍しくはない。よって本試験では今回の課題による出題意図を正確に読み取る必要がある。週末住宅を住人がどのように使用したいのか、将来は移住することも想定しておくべきか、高齢者に配慮すべきか、さらには今現在、住人が利用しない平日を民泊として1日単位で貸し出すような利用方法も近年増加しているため、そういった利用方法の想定が必要かなど。本年の課題は、利用方法が限定できず、想定範囲が非常に広くならざるを得ない。いずれにせよ課題文を正確に読み解くよう心掛けて下さい。近年の課題では【専用住宅】か【併用住宅】の指定がありましたが、今回の【週末住宅】+土間スペースという課題からは、専用住宅と併用住宅の両方の要素を持つこととなり、対策として勉強する範囲が広がり、例年より練習量を増加すべきでしょう。どんな難しい課題になろうとも作図スピードUPをして試験に望むことが、本年の最重要必須事項です。

【木造2階建】→2級建築士が設計できる木造2階建て住宅の延べ面積は1000㎡以下です。過去出題を調べると150㎡~270㎡と開きがあります。今年は建物の利用方法による計画がポイントとなることは間違いありません。いろいろな課題を通して理解を深めて、住人の動線・利用のしやすさを意識して、設計力(エスキス力)を養ってください。

【過去の類似課題】→ H22年「兄弟の二世帯と母が暮らす専用住宅(木造)」にて土間スペースの出題、H8年「景勝地に建つ観光センター(RC造)」にて景勝地の出題、目を通すべき過去問となります。

【その他】→木造の年は作図量がありますので練習量に比例して結果がでる傾向にあります。今年は断面図・部分詳細図(断面)において土間スペースの納まりも覚えなければならず、作図量だけでなく理解すべき項目が極めて増加しています。2ヶ月間全力で練習しなければいけないと肝に銘じて下さい。合格するためには課題の日本語を正しく読み忠実に図面に表現し、綺麗に作図するように心掛けて下さい。作図スピードUPはもちろん、細かい条件を逃さないよう作図完了後の十分なチェックでしっかり得点すれば、必ずみなさん合格できます！



学科独学の受験生
完全サポーター宣言！



製図試験で失敗しない方法を
当学院の初回無料講座で
しっかりマスターしましょう。